

氏 名	井 上 雅 文
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4470 号
学位授与の日付	平成 24 年 3 月 23 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Does Pretreatment with Lansoprazole Influence *Helicobacter pylori* Eradication Rate and Quality of Life?
(ランソプラゾールの*Helicobacter pylori*除菌前投与は除菌率およびQOLに影響を与えるか)

論文審査委員 教授 小熊 恵二 教授 那須 保友 准教授 貞森 裕

学位論文内容の要旨

Helicobacter pylori(以下 HP)感染による消化性潰瘍の治療において HP 除菌前のプロトンポンプ阻害剤(以下 PPI)投与の影響に関する報告のうちランソプラゾール 30mg、アモキシシリン 750mg、クラリスロマイシン 200mg(以下 LAC)を用いた除菌療法の報告はない。対象は 2004 年 10 月から 2007 年 2 月までに当院および関連 11 施設で上部消化管内視鏡を施行され、胃十二指腸潰瘍および HP 感染を診断された 116 例。患者を無作為に二群に振り分け、一方はランソプラゾールで治療後、LAC で除菌を行った(A 群: N=57)。もう一方は最初に HP 除菌した後、ランソプラゾールで治療した(B 群: N=59)。4 週のちに除菌判定した。その経過中、問診票を用いて消化器症状の評価を行なった。結果は除菌成績、消化器症状とも二群間に有意差を認めなかった。両群各々で治療前後の消化器症状を比較したところ、両群とも治療後有意な症状改善認めた。胃十二指腸潰瘍に対する PPI 前投与の有無は LAC を用いた HP 除菌において除菌成績および消化器症状に差は認めない。除菌療法含めた潰瘍治療により消化器症状は著明な改善を示した。

論文審査結果の要旨

本研究は、*Helicobacter pylori*に感染されている胃潰瘍患者で、我が国で推奨されているランソプラゾール、アモキシシリン、クラリスロマイシンの 3 剤で除菌する際に、その前後にランソプラゾールを投与した場合の除菌率および QOL に対する影響を、他施設共同ランダム化前向き試験で検討したものである。

結果としては、前後どちらに投与しても両者の間に有意差は認められなかったが、胃潰瘍患者における上記 3 剤を用いた除菌療法の際に、PPI であるランソプラゾールの投与の影響を検討したのは本論文が初めてであり、臨床的な価値が高い業績であると認める。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。